

「次世代がつくる介護の現場」

— 養護老人ホームあかつき —



岐阜県関市に平成 24 年 4 月の開設以来、地域に根ざした高齢者福祉の拠点として歩みを重ねてきました。施設内では、平均年齢 84.4 歳の入居者一人ひとりの生活に寄り添いながら、落ち着いた日常と温かな時間が流れています。

法人理念である「慈愛・自尊」を大切に、入居者の尊厳を守る支援を実践している同施設では、措置による入居に加え、契約による入居にも対応し、多様な背景を持つ方々の生活を支えています。

また、同一敷地内には特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービス、居宅介護支援事業所が併設されており、地域の高齢者福祉を多角的に支える体制が整えられています。現在、13 名の職員がそれぞれの役割を担いながら、入居者の安心した暮らしを支えています。その中でも、これからの介護現場を担う若い世代の職員の存在は大きく、日々の実践の中で新たな風を吹き込んでいます。

本記事では、養護老人ホームあかつきで活躍する次世代の担い手である若手職員 3 名にインタビューを実施しました。現場で感じるやりがいや介護の魅力、そしてこれからの目標について語っていただきます。



介護支援職員インタビュー①

「思っていたより楽しく、続けたい仕事でした」

名前 河村 希乃葉

入職日 令和7年4月1日入職



■ 介護の仕事を選んだ理由

介護の仕事に興味があったことと、取得していた音楽療法の資格を活かせると思ったことがきっかけです。まだ十分に活用できていない部分もありますが、今後は仕事の中で活かしていきたいと選びました。

■ 働く前と働いた後の印象の違い

働く前は、介護度の高い方が多く、身体介助がとても大変なのではないかと思っていました。しかし実際には、自立されている利用者さんも多く、会話を楽しめる場面が多かったです。想像していたよりも楽しく、「介護＝大変だけ」という印象は変わりました。

■ やりがいを感じた出来事

最初は自分から話しかけることが難しかったのですが、徐々に話題を振れるようになりました。特に印象に残っているのは、トイレ誘導やパッド交換の際に利用者さんから「ありがとう」と言っていたことです。その言葉をもらったとき、介護の仕事をしていてよかったと感じました。

■ この仕事で成長したこと

以前よりも声を出してコミュニケーションを取れるようになりました。また、利用者さんの顔色から体調の変化に気づけるようになった。会話の中で大切な話と世間話を区別して聞けるようになったなど、人としての成長も感じています。

■ 大変だったことと乗り越え方

体調管理のために帽子を着用してほしい利用者さんに、なかなか理解してもらえないことがありました。「嫌だ」と言われても諦めず、相手のことを思いながら説明を続け、最終的に納得していただけたときは嬉しかったです。



■ 職場の雰囲気・サポート体制

先輩職員は、こちらから聞かなくてもいろいろ教えてくださり、とても助かりました。

職場は明るく、優しい人が多い雰囲気です。チームとして支え合える環境だと感じています。

■ 若い世代へ伝えたいこと

介護職は、「厳しい上下関係がある」「大変で余裕がない」というイメージを持っていましたが、実際は違いました。思っていたよりも働きやすく、気楽に続けられる仕事だと感じています。

■ 将来について

介護の仕事はこれからも必要とされ続ける仕事だと思います。自分自身が嫌にならない限り、これからも続けていきたいです。

介護支援職員インタビュー②

「利用者さんの安心した表情が、仕事のやりがいです」



名前 フー プウィン メー
PHOO PWINT MAY

資格 介護福祉士
国籍 ミャンマー
来日 4年目
入職 令和6年4月1日入職

■ 介護支援の業務で一番嬉しかったこと

利用者さんが笑顔で「ありがとう」と言ってくださり、安心した表情を見せていただけたときに、最もやりがいと嬉しさを感じます。

自分の関わりによって、利用者さんが安心して生活できていると実感できる瞬間が、この仕事の魅力だと思います。

■ 介護支援の業務で大変だと感じたこと

利用者さんは一人ひとり性格や生活背景が異なるため、その方に合った関わり方を考えることが大変だと感じました。

しかし、その分学ぶことも多く、経験を重ねる中で視野が広がっていると感じています。

■ 最初にもらった給料の使い道

最初の給料は、まず生活費や家賃に充てました。

少し余った分は自分へのご褒美として、旅行に行ったり化粧品を購入したりしました。

仕事を始めて、自分で得た収入を使える喜びを実感しました。



■ 将来について

これからも、ここで働いて家族を呼んで日本で一緒に暮らしていきたいです。

介護支援職員インタビュー③

「人と話せるようになったことが、自分の成長です」

名前 バルトライノ ヴィクトルバルゾ

BALUNTO RHINO VICTOR BARLIZO

入職 令和5年6月8日



■ 介護の仕事を選んだ理由

前職を辞めた際、新しい仕事を探さなければならぬと思っていました。そのとき知人から「ここが空いているよ」と紹介してもらい、「まずは仕事をしてみよう」という気持ちで入職しました。最初は介護を目指していたというより、働くことが目的で、たまたまこの職場で介護の仕事を始めることになりました。

■ 働く前と働いた後の印象

以前にアルバイトで介護に関わった経験はありましたが、深く関わったことはありませんでした。実際に働き始めてからは、基礎から学び直し、一つひとつできることが増えていきました。

■ やりがいを感じた出来事

この仕事を通して、人としっかり話せるようになったことが大きな変化です。もともとはできれば人と話したくない性格でしたが、利用者さんとの関わりを重ねる中で自然とコミュニケーションが取れるようになりました。

■ 大変だったことと乗り越え方

利用者さんがやりたいことと、自分が「その方のために良い」と思うことがぶつかる場面があります。そのような時は、しっかり話し合いを行い、お互いに納得できる形を探しながら解決しています。

■ 職場の雰囲気・サポート体制

職場の雰囲気はとても優しく、「ここは一人ではない」と感じられる環境です。困ったことや分からないことがあれば、他の職員に気軽に相談でき、丁寧に教えてもらえるため働きやすさを感じています。

■ 休日の過ごし方

休日は、時間があればバイクで出かけています。行き先を決めず、「行けるところまで行ってみよう」と自由に走る時間が楽しみです。

■ 将来について

将来についてはまだ具体的には決めていませんが、まずはお金を貯めながら、やりたいことが見つかったら挑戦したいと考えています。今はこの仕事を続けながら、目の前の経験を積んでいきたいと思っています。



今回のインタビューを受けて

入居者一人ひとりの生活に寄り添いながら、日々の支援に取り組む養護老人ホームあかつきの職員、今回インタビューに応じてくれた若手職員の言葉からは、介護という仕事への誇りと、入居者の暮らしを支える責任、そして人と人との関わりを大切にする温かな思いが感じられました。

介護の現場では、日々の何気ない会話や小さな変化に気づくことが大切であり、その積み重ねが入居者の安心した生活につながっています。若い世代の職員たちは、そうした日常の中で経験を重ねながら成長し、施設を支える大切な存在となっています。

養護老人ホームあかつきでは、法人理念である「慈愛・自尊」を大切にしながら、入居者一人ひとりの尊厳を守る支援を続けています。次世代の担い手たちの力が、これからの介護の現場をさらに支えていくことでしょう。

若い力と温かな思いが息づく養護老人ホームあかつき。その歩みは、これからも地域の安心とともに続いていきます。

